



## 収益が加速的に拡大中、22/12通期会社業績予想は2回目の上方修正

### 決算概要

- 要点:** アクリートは、11月11日（金）の引け後に、22/12期3Q決算を発表した。連結ベースの主要数値は、売上高46億15百万円(前年同期比134.9%増)、営業利益10億7百万円(同200.9%増)、親会社株主に帰属する純利益(以下、当期利益)は6億81百万円(同209.6%増)で大幅な増収増益を達成した。3Q決算発表時に22/12通期会社予想の上方修正も発表している。前回予想よりもSMS配信数が増加していることに加えて、想定以上の円安効果で海外子会社の連結利益貢献が膨らんでいる模様である。
- 事業ポートフォリオの拡大:** 国内SMS配信サービスとメール配信サービスを含む国内メッセージングサービス事業の22/12期3Qの売上高は36億98百万円となった。海外メッセージングサービス事業が22/12期2Qより新たな区分として連結会計に加わったこともあり、同事業の前年同期との売上高増減率の開示はないが、COVID-19の第7波に絡んで自治体等行政と患者との連絡手段でSMS配信サービスの利用が大幅に増加したことが同事業の売上高に貢献している。また、2021年9月に連結子会社になったテクノミックスが展開しているメール配信サービスの「学校安心メール」や「自治体安心メール」は全国5,000を超える公的な団体や施設で採用されており、国内メッセージングサービス事業の大幅増収に貢献した。ベトナムでのSMS配信サービスが中心の海外メッセージング事業の売上高は9億18百万円で、今後は年間を通した海外関連の売上動向に期待が高まる。
- 上方修正された22/12通期会社予想:** 3Q決算発表時に22/12通期会社予想が上方修正された。8月12日の2Q決算発表時に続き2回目の上方修正である。新しい会社予想は下表の通りで売上高及び利益の伸び率が共に著しい。COVID-19に絡むSMS配信数が当初予想より上振れ、円安の影響で海外子会社の収益貢献も前回予想を上回る見込みであることなどが上方修正の主な背景である。既に3Q決算時点で新会社予想の22/12期営業利益の83%は達成されている。

決算期	売上高 (百万円)	YoY (%)	営業利益 (百万円)	YoY (%)	経常利益 (百万円)	YoY (%)	当期利益 (百万円)	YoY (%)	EPS <sup>(2)</sup> (円)	DPS (円)
18/12 単	1,291	36.0	246	43.6	222	30.0	152	35.5	28.2	0.0
19/12 単	1,413	9.5	254	3.2	249	11.7	170	12.0	29.7	0.0
20/12 単	1,732	22.5	344	35.6	345	38.6	241	41.2	41.5	10.0
21/12 連 <sup>(1)</sup>	2,833	-	465	-	461	-	300	-	50.8	10.0
22/12 連(旧会予)	5,726	102.0	917	97.4	923	100.0	568	89.3	96.6	10.0
22/12 連(新会予)	6,121	116.0	1,220	161.9	1,224	165.4	774	158.0	131.9	10.0
<b>四半期</b>										
21/12 3Q 連 <sup>(2)</sup>	1,965	-	335	-	333	-	220	-	37.3	-
22/12 3Q 連	4,615	134.9	1,007	200.9	1,027	207.7	681	209.6	114.4	-

出所：同社決算短信よりSIR作成

注(1): 21/12期3Qより連結財務諸表を作成していることから、対前年同期比増減率は記載していない。

注(2): 潜在株式調整後株式で計算したEPSを表記している。

### 3Q Follow-up



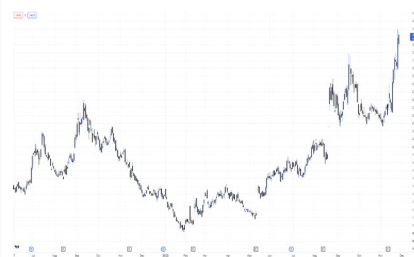
#### 注目点：

急拡大するSMS配信事業で実績と技術に裏付けされた競争力を持つ。アジア市場への参入も今後の収益ドライバー。

#### 主要指標

株価 (11/25)	3,380
年初来高値 (11/25)	3,495
年初来安値 (1/28)	915
10年間高値 (22/11/25)	3,495
10年間安値 (20/3/13)	571
発行済株式数(百万株)	5.867
時価総額 (十億円)	19,932
EV (十億円)	7,013
自己資本比率(9/30)	65.3%
22/12 PER (会予)	24.5x
21/12 PBR (実績)	5.0x
21/12 ROE (実績)	21.0%
22/12 DY (会予)	0.3%

#### 56週株価チャート (週足)



出所: Trading View

#### 中嶋俊彦

シニアアナリスト

research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレームーをご覧ください。



## 22/12期3Q連結決算概要

22/12期3Qの主要数値は売上高46億15百万円(前年同期比134.9%増)、営業利益10億7百万円(同200.9%増)、経常利益10億27百万円(同207.7%増)、当期利益6億81百万円(同209.6%増)で大幅な増収増益を達成した。

同社はベトナムでSMS配信サービスを展開するVietGuys J.S.C(以下、VGS社)を2Qより連結子会社としている。このことから事業セグメントを従来の単一事業のメッセージングサービス事業から、国内メッセージングサービス事業と海外メッセージングサービス事業の2区分に変更し、グループ各社の所在地を基礎とした地域別から構成した事業区分になっている。このことから22年12期3Qではそれぞれの事業セグメントの売上高及びセグメント営業利益の前年同期比増減率の開示は今回は行われていない。今後は国内と海外それぞれの市場における同社の事業展開の進捗状況が明確になると考えられる。

3Qの国内メッセージングサービス事業の売上高は36億98百万円、セグメント営業利益は10億5百万円であり、同事業の構成比は売上高に対して80.1%、営業利益に対して99.8%であり、現時点では国内メッセージングサービス事業が全体収益の大半を占めている。同事業はSMS配信サービスとメール配信サービスに分類されており、メール配信サービスは2021年9月に連結子会社化されたテクノミックスがサービスを展開している。

3QにおけるSMS配信サービスはCOVID-19の第7波に絡んで自治体等行政と患者との連絡手段でSMS配信サービスの利用が大幅に増加したプラスの影響があった。それ以外にも公的機関や民間企業におけるSMS利用方法の多様化などからSMS配信市場が拡大していることもSMS配信サービスの売上高が続伸した背景になっている。メール配信サービスは学校・PTA・保護者間の連絡をスムーズに行うことが出来る「学校安心メール」、住民と自治体間の防犯・防災危機管理緊急連絡システムなど全国5,000を超える公的な団体や施設で採用されている「自治体安心メール」等のサービスを提供しており、メール配信サービスの利用は順調に拡大した模様である。

海外メッセージングサービス事業の売上高は9億18百万円、セグメント営業利益は2百万円強であり、売上高全体に占める構成比は19.9%、セグメント営業利益は僅かながら黒字が確保されている。法人向けSMS(A2P-SMS)におけるベトナムのSMSトラフィック(通数)は、現在の日本の約110億通前後に対し、2024年には350億通を上回る規模にまで拡大すると言われている。同社はベトナムを足がかりに他の国々を含めたアジア市場全体での事業拡大を目指しており、日本で培った経験や知見を活かし、ロールアップ戦略で経営資源を統合することでの効率化や相乗効果を狙っており、中期的な海外メッセージングサービス事業の成長に期待が高まる。

3Qにおける他の注目すべきトピックは、ミック経済研究所(デロイトトーマツ)の「ミックITレポート2022年10月号」の調査報告である。同調査によると、同社が国内及び海外アグリゲーターを合わせた2021年度法人向け配信数において全体シェア1位を獲得したことを報じている。事業提携関係では8月にコラボス社が提供するクラウド型コールセンターシステム「COLLABOS PHONE」にメッセージ機能を付加するサービスを開始した。また同じ8月にAI顔認証サービスを提供しているトリプルアイズ社と携帯電話番号活用による本人承認サービスの先駆者である同社が業務提携を行っており、同社のメッセージングプラットフォームの更なる強化を進めている。

事業別売上高・セグメント営業利益(22/12期3Q)

事業	国内メッセージングサービス事業	海外メッセージングサービス事業	合計額
売上高(千円)	3,697,977	917,651	4,615,628
セグメント営業利益(千円)	1,005,190	2,699	1,007,889
セグメント営業利益率	27.2%	0.3%	21.8%

出所：同社決算短信よりSIR作成

22/12通期会社業績予想の上方修正

同社は3Q決算発表時に22/12通期会社業績予想の上方修正を行なった。8月12日の2Q決算発表時に続き2回目の上方修正である。新会社予想の主要数値は売上高61億21百万円(前年同期比116.0%増)、営業利益12億20百万円(同161.9%増)、経常利益12億24百万円(同165.4%増)、当期利益7億74百万円(同158.0%増)で会社設立以来8年連続の増収増益が見込まれる。

上方修正の主な背景としては、国内メッセージングサービス事業のSMS配信サービスの売上高が自治体等行政サービスの利用が従来想定より大幅に増加したことによって3Qの収益が大幅に拡大したことが挙げられる。またSMS配信を利用する公共及び民間企業数の増加ペースとその利用方法の多様化等が従来の見通しを上回って好調に推移していることも従来予想を上回る業績拡大に繋がっている模様である。従来想定よりも円安が進んだことにより海外子会社の収益貢献が当初見込みを上回る結果となっている。利益面においては販売費及び一般管理費等の経費の増加よりも高い売上高増収率が計られていることから利益率は改善傾向にある。会社の新しい22/12通期業績予想では営業利益率は19.9%に到達する模様であり、前期の16.4%から3.5ポイントの大幅な上昇が期待できる。

現行の中期経営計画に変更はない

今回の22/12通期会社業績予想の上方修正による2022年8月18日に公表された同社の中期経営計画(23/12期～25/12期)の変更は現時点では行われない模様である。公表されてまだ4ヶ月程度しか経過していないことと、22/12期業績予想にはCOVID-19第7波の特殊要因が多少含まれているのに対して、中期経営計画ではそのような特殊要因を見込んでいない。同社の中期経営計画は加速する社会や企業におけるDX化、個人情報取扱の厳格化、AIをはじめとする新しいIT技術に対応するサービスの提供、アジアにおける事業拡大等、同社の経営ビジョンに基づいて策定されている。中期経営計画の最終年度である25/12期の主要業績数値は下記の通りである。

中期経営計画(23/12期～25/12期)

事業	21/12期実績	22/12期予想	23/12期(計画)	24/12期(計画)	25/12期(計画)
売上高(百万円)	2,764	6,121	7,800	11,700	17,000
営業利益(百万円)	498	1,220	1,200	1,900	3,000
営業利益率	18.0%	19.9%	15.4%	16.2%	17.6%

出所：同社資料よりSIR作成

## LEGAL DISCLAIMER

### ディスクレイマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や情報は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



**SESSAパートナーズ株式会社**

東京都渋谷区広尾5-3-18

[info@sessapartners.co.jp](mailto:info@sessapartners.co.jp)